

全学モジュール科目案内

テーマ名	13-09 コミュニケーション実践学		
テーマ責任者	山地 弘起	責任部局	大学教育機能開発センター
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
趣旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核となっています。大学卒業時に期待される多くの能力のなかでも、コミュニケーション力はその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ってきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。</p> <p>したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、日常的に存在しているコミュニケーション状況を解明し、そのうえで各自のコミュニケーション力をより機能的なものにしていくことが有効です。本科目群では、全員が学ぶモジュールⅠにおいて、比較文化・生物学・ICTの三側面からコミュニケーション状況を理解し、これらを踏まえて、モジュールⅡにおいて各自の関心に応じた学習を深め、それぞれのコミュニケーション力を高められるように工夫しています。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの文化的多様性と普遍性を説明できる：科目Ⅰa「コミュニケーションの比較文化」 ・コミュニケーションの生物学的背景を説明できる：科目Ⅰb「コミュニケーションの生物学」 ・高度情報社会を支えるコミュニケーション技術とその課題を説明できる：科目Ⅰc「コミュニケーションとICT」 ・関心をもったコミュニケーション領域の知識と技能を活用できる：科目Ⅱa～Ⅱf ・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける 		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識はとくに問いませんが、コミュニケーションについて広い関心のある方、また他者と協働して学習を進めていくことに関心のある方を歓迎します。科目内容だけでなく、他の学生たちと、また担当の教員たちとコミュニケーションを実践していくこと自体が、コミュニケーション技能の向上の機会となります。ぜひチャレンジして下さい。</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	(Ⅰa) コミュニケーションの比較文化	国際連携研究戦略本部 波佐間 逸博	言語的・非言語的コミュニケーションの多様性と普遍性を、文化的・歴史的な諸事例を通して理解する。	声の文化・アフリカ・身体の共鳴・社会動態
	(Ⅰb) コミュニケーションの生物学	環境科学部 岡田 二郎 医歯薬(医学系) 篠原 一之 土居 裕和 西谷 正太	動物およびヒトの行動とその解剖学的・生理学的基盤、とくにコミュニケーションに欠かせない認知・情動に関する脳基盤を概説し、また関連したホルモンや遺伝子等についても学習する。	進化・社会化・神経現象学・ソーシャルブレインズ
	(Ⅰc) コミュニケーションとICT	教育学部 中村 千秋	ICTの現況と課題を理解するために、インターネットの歴史と動向、情報通信の仕組み、ソーシャルメディアの可能性、メディアリテラシー、情報化の光と影、などの内容を学習する。	情報システム・ソーシャルメディア・メディアリテラシー・知識基盤社会
モジュールⅡ	(Ⅱa) 対人世界の心理学	大教センター 山地 弘起	自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索する。	社会的ネットワーク・愛着・ソーシャルスキル・ケアリング
	(Ⅱb) 身体・かかわり・言葉	大教センター 山地 弘起	自分と身体との関係、および身体と外界との関係について理解を深め、より自由で手応えのあるコミュニケーションがいかに可能となるかを体験的に探る。	身体技法・非言語行動・アウェアネス・脱学習
	(Ⅱc) 芸術・スポーツとコミュニケーション	教育学部 西田 治 教育学部	芸術表現やスポーツ・武道などにおけるコミュニケーション現象を吟味し、意識的・無意識的な相互作用を体験的に理解して生活に活かす。	適応的無意識・共同創造・カタルシス・身体運動文

		小原 達朗		化
(II d) 社会・メディア・政治	広報戦略本部 深尾 典男		日常の様々なメディアの影響力を吟味し、社会規範の形成や権力の浸透におけるコミュニケーション過程を理解して生活に活かす。	権力・記号・言説分析・ポストモダニズム
(II e) 日本語と表現	教育学部 鈴木 慶子 非常勤講師 大森 アユミ		言語の構造と機能を理解するとともに、歴史的・地域的な差異に注目しながら日本語表現の特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。	日本語・語用論・レトリック・言語差別
(II f) 異文化コミュニケーション	言語センター 大橋 絵里 言語センター 奥田 阿子		背景文化の異なる人々と関わる際の課題を理解し、相互理解と共生への手立てを事例検討や体験学習等を通して模索する。	文化感受性・他者・グローバルゼーション・共生思想

全学モジュールの目標 キーワード、および授業 編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
(I a)コミュニケーションの比較文化	○	◎			○		◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	○
(I b)コミュニケーションの生物学	○				○		◎	◎	○		◎	○	○	○	○	◎	○
(I c)コミュニケーションとICT	○	◎		○	○		◎			○	◎	○	○	○	○	◎	○
(II a) 対人世界の心理学	◎	○	◎	○	○		○		○	◎		◎	◎	○		◎	◎
(II b) 身体・かかわり・言葉	◎	◎	◎		○		○		○			◎	◎	◎		◎	◎
(II c) 芸術・スポーツとコミュニケーション	◎		◎	○	○		○		○	○		◎	◎	◎		◎	◎
(II d) 社会・メディア・政治	◎	◎	○	○	○		○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
(II e) 日本語と表現	◎	○	◎		◎		○	○	○		○	◎	◎		◎	◎	◎
(II f) 異文化コミュニケーション	◎	○	○	◎		◎	○		○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎
◎(特に重視)の数	6	4	4	1	1	1	3	1	1	2	3	6	6	5	3	9	6
○(重視)の数	3	3	2	4	7	0	6	3	7	4	3	3	3	3	3	0	3

※工学部・水産学部に係るJABEE項目